

天遊

大阪教育大学 広報誌

VOL.9 2008. SPRING

つながっていく、明日への歩み。

《特集》

大学法人化後の4年間を振り返って

「大学法人化後の4年間を振り返って」

大阪教育大学長 稲垣 卓いな がき たかし

国立大学が、国の行政組織である文部科学省から独立して、国立大学法人になってはや4年が経ちました。「国立大学法人大阪教育大学の発足にあたって」というご挨拶の一文を巻頭に掲げて、この広報誌「天遊」を2004年4月に創刊したのも、つい昨日のことのようです。

この4年の間に、大阪教育大学では、中期目標・中期計画の着実な達成に取り組み、さまざまな改革を進展させることができました。その様子を広く地域の皆さんに伝えていくことも大阪教育大学の大きな課題のひとつでしたが、広報誌「天遊」は、この点で大いにその役割を果たしてきたといえます。

この3月末をもって学長を退任し、大阪教育大学を去るにあたり、あらためて法人化後の4年間の大阪教育大学の歩みを報告し、退任のご挨拶に代えたいと思います。

法人化がめざしたもの

そもそも国立大学の法人化は、ともすれば横並びになりがちな国立大学が、それぞれの大学に固有の役割や使命を明確にし、自らの

責任のもと、自主的・自律的に個性と特色のある大学へと改革を進めることを意図して行われたものでした。大阪教育大学は、どのような大学をめざすのか。どのような目標を立て、どのような計画をもって大学を改革していくのか。これら全てを中期目標・中期計画に明

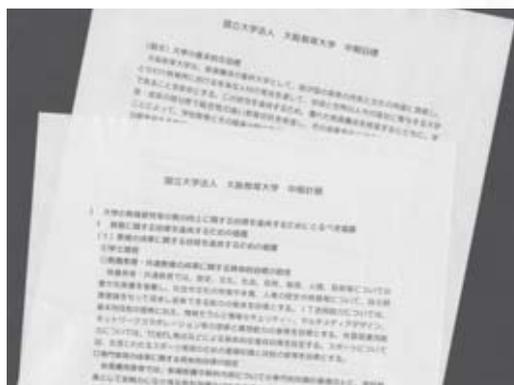


記して、大阪教育大学は2004年4月に法人化のスタートを切りました。最大の目標としたのは、教員を育成する大学として、社会の期待に応え、信頼される大学となっていくために必要な改革を着実に実施していくことでした。

中期目標・中期計画の達成状況

大阪教育大学では、中期計画に250に近い改革事項を列記しました。うち7割は教育研究に関する事項、残り3割が業務運営等に関する事項です。この4年間、この中期計画をもとに年度計画を立て、これを着実に達成していくことを大学の業務の基本としてきました。業務運営等に関する年度計画の達成状況については、毎年6月に前年度の業務実績報告書を文部科学省に提出し、これに基づいて国立大学法人評価委員会が評価を下してきました。幸いにも大阪教育大学の年度計画については、

毎年度、ほぼ全ての項目で5段階評価の4に相当する「順調に進んでいる。」との評価を得ることができました。2004年度から2006年度の3年間の積み上げの中で、大阪教育大学の業務運営等についての評価結果は、87国立大学のうち上位30位以内にランクされています。なお、教育研究に関する中期計画の達成状況については、教育研究活動の水準評価とあわせて、2008年度に評価が行われることになっており、目下、6月に向けて報告書の作成を進めているところです。



教育研究組織の見直し

この4年間、中期計画に沿って取り組んだことのひとつに組織の見直しがあります。まず最初に取り組んだのがセンターの見直しでした。大阪教育大学には、法人移行の段階で、情報処理センターや留学生センターなど、あわせて7つのセンターがありました。これら7つのセンターのうち、附属教育実践総合センターと生涯学習教育研究センターを見直して、2006年に新たに教職教育研究開発センターを設置しました。5部門を整備し、教育委員会からもスタッフを迎えました。大阪教育大学における教職教育改革の中核を担うセンターとしての今後の展開を大いに期待していただきたいと思います。このほかに、2007年には、科学機器共同利用センターを見直して、新たに科学教育センターを設置しました。センターでは、今日、危機感をもって叫ばれている子どもたち

の理科離れに対応して、学校現場で十分な指導力をもって理科の指導が出来る教員の育成のための諸活動を進めています。これらセンターの見直しに加えて、大学院の見直しにも取り組み、そのなかで現職教員のための夜間大学院「実践学校教育専攻」を拡充し、3つのコースを整備しました。その詳細は、前号に詳しく紹介していますので是非ご覧下さい。大阪教育大

学では、今春から全国各地でスタートする教員のための新しい大学院制度である「教職大学院」に匹敵するものとして、今後とも夜間大学院「実践学校教育専攻」の充実に努めていくことにしています。大学院改革に関連して2007年度より大学院における「教員免許取得プログラム制度」や「長期履修制度」を導入したこともお伝えしておきたいと思っています。

大学教育の改革をめざして

今日、日本の大学教育の質が問われ、国際的な通用性と競争力を備えた大学教育の必要が叫ばれるようになっていきます。教員養成の分野にあっても、知識や技能を身に付けているだけではなく、それを活かして実際の教職実践が出来る教員の育成が求められています。大阪教育大学では、このような課題に取り組むため、2005年度より教養教育の抜本的な改善をはかりました。具体的には、「思索と芸術」「生命と環境」

国立大学法人大阪教育大学
教職教育研究開発センター
Research and Development Center for Teacher Education

OKU

- 人権教育部門・教育臨床部門
教育実習部門・地域連携部門
〒582-8582
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
E-mail: renkei@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
- 生涯学習支援部門
〒543-0054
大阪市天王寺区南河堀町4-88
E-mail: llc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

■事務担当
国際交流・研究協力課 社会連携係
TEL 0729-78-3253 (平成18年5月28日以降は072-978-3253)
FAX 0729-78-3554 (平成18年5月28日以降は072-978-3554)

平成19年度「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」採択事業(文部科学省委託事業)

大阪教育大学 社会人のための教員養成セミナー

力 組織力 リスクマネジメント力 教科指導力

教職への強い志の実現に向け、学校教員に求められる資質・能力を育成するプログラムの提供

対象: 大阪の小・中学校の教員にぜひやりたい教員免許状をお持ちの社会人

募集人数: 30人

開講場所: 大阪教育大学天王寺キャンパス及び柏原キャンパス

スケジュール: 平成20年8月下旬 セミナー開講(隔週土曜開催)
平成21年7月 修了

申し込み等 詳細は大阪教育大学ウェブページにて随時掲載いたします。

など6つの分野コアを設けて、深く幅広く現代的教養を培うカリキュラムにあらためました。今ひとつは、4年間積み上げ型の体系的な教育実習の導入です。教員をめざす学生が、初年次より教育現場に触れ、実践に即して課題意識をもって教職をめざすことができるように意図したものです。これらの改革に加えて、大阪教育大学では、教育改革に関する事業経費を毎年度の国への予算要求に盛り込んできました。その結果、この4年間につきのような事業に取り組むことができました。

- 心の教育支援事業
(2005年度)
- 学校安全教育プログラムの開発事業
(2006～2009年度)
- 実践的理科力養成プログラムの構築
(2007～2009年度)
- 特別支援教育コーディネータ養成プログラムの構築
(2007～2009年度)

また、国による国公私立大学を通じた大学教育改革の支援プログラム(いわゆる各種GPPプログラム)も積極的に申請し、その結果、この4年間につきのような事業に取り組むことができました。



- 大学院における採用前教育プログラムの開発
(2005～2006年度)
- 広域大学間連携による高度な教員研修の構築
(2005～2006年度)
- 知財教育のできる教員養成システムの構築
(2005～2007年度)
- 地域連携学校教育のできる教員養成
(2006～2008年度)
- 学校組織の危機対応教育プログラムの開発
(2007～2008年度)
- 大学と学校・教育委員会の連携による教員免許所持者のための即戦力教育プログラム
(2007～2009年度)

特に、本学のいくつかのGPPプログラムの取組みは、先駆的でモデル的な取組みとして高い評価を得ることができました。このような教育改革への取り組みをとおして、社会や教育界が抱える問題や課題に積極的に関与し参加していこうとす

る教職員・学生の意識は、以前にも増して高まったと言えます。

大阪教育大学の 今後に向けて

今日、大阪教育大学は、学部・大学院・専攻科を合わせて、毎年、600人近い教員を生み出すわが国最大の教育系大学です。教員の大量退職と大量採用が続くなか、大阪教育大学の責務には、これまで以上に重いものがあります。わが国の教育は、これからも様々な困難や課題に直面していくことは避けられません。どのような困難や課題があっても、子どもたちと社会の未来のために、

それを乗り越え、新しい道を切り開いていける教職者スピリッツに溢れる教員を育成していくことが、大阪教育大学の変わらない使命です。折しも、わが国の教員免許制度が、2009年度から大きく切り替わり、全国の110万人といわれる現職教員を含めて、全ての学校教員は、10年に一度の免許更新講習を受けなければならない制度がスタートします。大阪教育大学は、教員を育成する大学として、免許更新講習においても、教員の期待に、そして社会の期待の応えていかなければならないと考えています。

2010年4月には、全ての国立大学法人は2サイクル目の中期目標期間を迎えることになり、その中で国立大学の再編や運営費交付金への成果主義の導入の動きは、いよいよ加速していくこととなります。これからも、多くの課題への挑戦が続きます。大阪教育大学への地域の皆様からの変わらぬご支援とご声援をお願いして、退任にあたっての報告といたします。

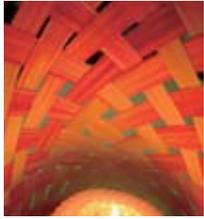
塩基性染料の吸着性を利用した 木材内部への着色と利用法

技術教育講座 准教授 荒井 一成あらい ひとしげ

木材着色の研究は、木材の模様や色調をデザイン要素とする「住」環境内における商品や教材への木材利用を促進するためにも重要です。簡易で効果的に着色する技術を研究してきたので紹介いたします。

この研究の特色の一つは、液中に材料を立てるだけで着色する毛管圧上昇法を用いている点です。乾燥材への流動のため、着色部と未着色部の色彩コントラストが大きく、着色操作が容易で、着色液に無駄がないこと等の利点もあります。

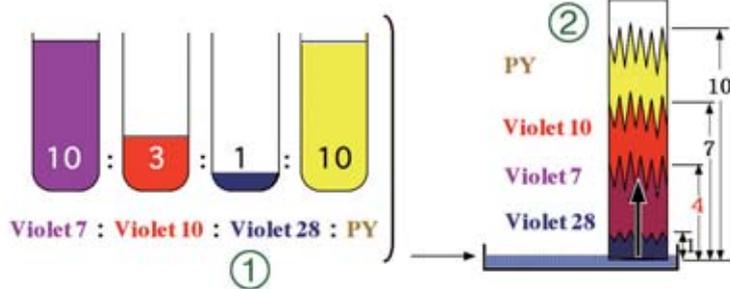
また、特色の二つめとして、これまで木材細胞壁への吸着が強くて使いにくかった塩基性染料の性質を逆手にとり、液体の流動方向へ染め分けさせた点で



照明器具への利用

す。実験の結果、化学構造によって吸着性に違いがあることがわかり、しかも、吸着性および色の異なる塩基性染料二〜三種の配合液を繊維方向へ流動させると、二〜三色に染め分けされることがわかりました。

三つめの特色として、ニュージールランド松(針葉樹)材を利用する点です。材のほぼ全体を仮道管で形成している針葉樹材は、分散あるいは環状等に道管を配列する広葉樹材より、垂直に流動させた場合でも大量にかつより長い距離が着色されます。そこで本当は、スギやヒノキなど国産の針葉樹材を使いたいところですが、ほとんどの針葉樹材は、乾燥中に仮道管同士を結ぶ弁が閉じてしまい、うまく着色できません。現在のところ、ニュージールランド松材のみで装飾性の高い浸透着色を実現しています。



カラフルに着色される配合液の配合比および着色高の割合

出来上がった素材を、小学生の工作教室で使ってみたと、
「カッターで切っても色が出てくるのが驚きだった」「重ねると虹のようだった」「木の宝石みたい」など、表現豊かな感想が寄せられました。
また、愛知万博でも実演する機会を得たところ、子どもばかりでなく大人まで、着色実験および、小鳥の製作を大いに楽しんでくれました。

さらに、本年度のキッズ・ベンチャー(本学現代GP「地域連携学校教育のできる教員養成」のプログラムの一つ)でも、中学生が、透過する光と色の組合せを活かし、魅力的な照明器具を作成・販売し、完売させていました。

液体の流動方向に色分けされる過程を、科学的な根拠を理解しつつ観察でき、できあがった素材で、造形を楽しんでもらえる提案を続けていきたいと思えます。現在は、材料にスリットや圧縮を加えて、さらに神秘的な着色パターンが表れる方法を研究しています。



「玉中へ集まろう」での販売



小鳥製作後のひとコマ(愛知万博にて)

教育と福祉の協働モデルの構築

発達人間福祉学講座 准教授 新崎 国広 あらさき くにひろ

発達人間福祉学講座とは

誕生から死に至るまでの人間の「生涯発達」の中で生じうるさまざまな現象を研究テーマとしています。教育学・社会学・精神医学・心理学といった諸領域で、特定の領域に束縛されることのない自由な研究実践を志向してきました。その一つのテーマが「共生」です。それぞれに独自の個性を持った人間同士がいかに共生していくかということは、非常に重要なテーマです。共生をより豊かなものとしていく手段の一つとして、「福祉」が位置づけられます。福祉を人間の発達における重要なファクターとして捉え、単なる技術論にとどまることのない、発達人間学の理念に根ざした福祉のあり方を追究することを目指して研究に取り組んでいます。^{※1}

一、福祉教育実践研究とは

福祉教育は、「社会福祉専門教育」と「福祉一般教育」に大別できます。^{※2}「社会福祉専門教育」とは、社会福祉従事者養成のための専門教育です。一方、「福祉一般教育」は、児童生徒を対象とした「学校における福祉教育」と、地域の公民館や社会福祉協議会等において行われる一般市民を対象とした「地域を基盤とする福祉教育」に整理できます。

二、福祉教育実践研究の実際

新崎研究室では、主に「福祉一般教育」の実践研究を行っています。具体的には、「学校教育における福祉教育実践」としては、授業の一环として行っている「学生達が企画・参画する本学バリアマップ作成授

業」や、寝屋川市・岬町等の社会福祉協議会や小



学生が作成した本学バリアマップの一部

中学校において授業研究を行っています。また、「地域福祉を基盤とする福祉教育」においては、寝屋川市や滋賀県社会福祉協議会を中心に地域住民を対象とした福祉教育実践研究を行っています。

三、教育と福祉の協働モデルの構築をめざして

すべての人々が相互に人間としての尊厳を尊重し、共生社会の創造を目指すことが、教育と福祉に通底する基本理念です。しかし、現在の学校は、学力低下問題だけでなく、いじめ、不登校といった課題が山積され危機的状況にあるといえます。子ども達をまもり育むのは学校教育だけではありません。家庭教育や



地域福祉教育ワークショップ研修の一場面

地域教育(社会教育)も非常に重要な役割を持っています。このような視座に立つて考えると、福祉教育実践は、学校教育の枠を広げ、地域教育や家庭教育の分野とも協働することが求められます。今後も、共生社会の創造を目指して教育と福祉の協働実践研究を行っていきたい所存です。

※1 本学HP「教育組織の紹介」より <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/human.html>

※2 岡村重雄、「福祉教育の目的」、伊藤隆二他編「福祉思想入門講座③福祉の教育」、柏樹社、1976

数学専攻専門科目 応用数学Ⅱ

数学教育講座 准教授

貞末 岳ただすえ たけ



ある日の講義風景

応用数学Ⅱでは、確率論の基礎を講義しています。「確率論」というと、学生の多くは「さいころ」や「宝くじ」、「賭け事」を連想するよう

ですが、確率論の実際の応用範囲は、電気通信における雑音の除去や金融商品の価格付けなど非常に幅広いものとなっています。

この広い応用範囲は、ものごとを「規則正しく動く部分」と「時々刻々付け加わるランダムな動き」に分けて捉える、ということが非常に有効だということに起因します。

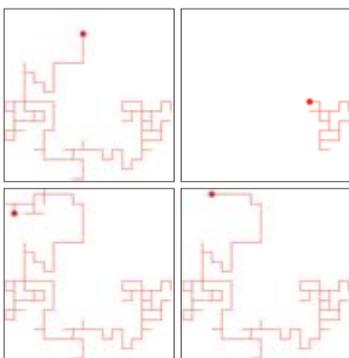
この講義では、この「ランダムな動き」の基本となるモデルとして「単純ランダムウォーク」を題材にして、その数学的性質を解析してゆきます。

「単純ランダムウォーク」とは、粒子が、ある表面の上を「1秒ごとに、東西南北どちらかに1歩ずつ、確率4分の1で動く」という規則で得られる動きのことです。規則は単

純そのものですが、数式処理ソフトでシミュレーションしてみると、図のように思わぬ動きをすることがわかります。

学生には、シミュレーションの結果を紹介したり、またシミュレーションのプログラムを作成させたりします。

このランダムウォークの性質を調べるには、このようなシミュレーションのほか、微分積分学や複素関数論など解析学の深い知識が必要となります。また、たとえば「初めて出発点に戻るのはいつか」という問題を解くには、図形の対称性を巧妙に用いる幾何学の要素も必要となります。とくにこの巧妙さには、パズルのような面白さがあり、学生の多くは興味を惹かれるようです。



ランダムウォークの軌跡(シミュレーション)

このように、ランダムウォークを深く知るには、数学の専門的な知識が必要ですが、そのような基礎的な部分を講義するときは、どうしても一方通行で、無味乾燥なものとなってしまいます。これを避けるため、講義の終わりに小テストを行い、学生に考えさせるといったことを行っています。

この小テストの問題作成には毎回苦労しています。少し考えれば解けて、面白い、という問題はなかなか作ることができません。よい問題もあるのですが、毎回そうはいかず、面白いが難しすぎたり、簡単すぎて面白くなかったりしてしまいます。このような問題のときは学生も不満を感じるようです。ただ、これは文句なくよい、という問題のときの学生の反応は格別で、もっと工夫してみようと思わせられます。

数学は、今の科学技術文明を支える基盤のひとつになっています。

そのことを学生に理解してもらうため、毎年さまざまな工夫を凝らし、講義を行っています。



附属学校紹介

大阪教育大学 附属池田中学校

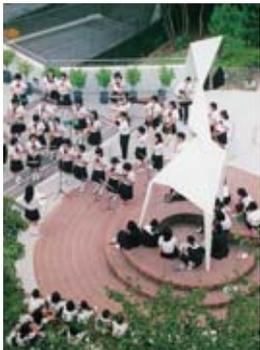
自律心を育み

国際社会の発展に貢献できる人材の育成

附属池田中学校 副校長 石田 晶大 いしだ あきひろ

本校は昭和22年4月15日、大阪府池田市に大阪第二師範男子部附属中学校として創設されました。校舎は池田城跡の城山にあった大阪府立海外商業学校のを借受け、主事梶山隆四郎の他5名の専任教官と5学級231人の生徒からなる小規模な新生中学校としてスタートしました。この頃の教育は教師の手づくりのカリキュラムで、今の総合学習のような「生活経験学習」が社会科を核として展開されてきました。

昭和32年5月に現在の緑丘の地に移転しました。また、旧陸軍のガラス工場の名残があちこちに見られ、大きな3本の煙突や工場の建物を改良し



風の彫刻家・新宮晋氏(5期生)のモニュメントを囲んで

た体育館は本校の名物になっておりました。現在の普通教室はこの時に建てられ、当時は「白亜の校舎」として学校建築のモデルになっていたそうです。

昭和40年から校舎、体育館、プール等の施設・設備の大改造が進み、10年間でほぼ現在の姿になりました。この時代は学校の名称も大阪学芸大学附属池田中学校から大阪教育大学附属池田中学校へと改称され、学級数も9クラスから12クラスの中規模校へと、変化の激しい時代でした。

昭和50年代は校舎・設備等の物的環境を整備する時代から、教育の中心・内容の一層の充実や質的変換がはかられました。学習指導要領が大きく改定され、「ゆとりある充実した学校生活」が求められ、本校では独自の「WEC方式」による教育課程を編成し、創造的な教育活動を展開して大きな反響を呼びました。「WEC」とは英語の「Work」労働、「Education」教養、「Club」

クラブ活動のそれぞれの頭文字の「W」「E」「C」をとって名付けられた「ゆとりの時間」の運用内容」のことです。これらの内容を毎週4時間のゆとりの時間に計画的に配置し、教科や道徳、特別活動の時間とのバランスをとって「ゆとりある充実した学校生活」を実現し、人間性豊かな生徒の育成を目指しました。



オーストラリア姉妹校での国際交流

60年代から平成7年にかけての10年は、教育の人間化がさらに推進され、人権・同和教育に根ざし、共に学び合い高め合うことを確認し、「学ぶことの意義」や「人間として生きる意味」を探究した実践が次々と展開されました。

そして、平成8年からの現在の附属中学校は、加速度的に進む国際化・情報化に対応するために国際学級設立構想を立ち上げ、国際枠入試を実施して帰国生徒や外国籍生徒を積極的に受入れ、21世紀の国際社会に貢献できる人材を育成するための新しい学校文化や教育システムの開発・創造をめざして国際理解教育に力を入れてき

ました。夏休みには、2年生を中心に希望者を20人、オーストラリアの姉妹校に派遣して異文化体験や交流を推進しています。「国際共同学習」と呼ぶ、一つのテーマをもとに日本とオーストラリアの良さを生かしながら新しいものを造り上げていくコラボレーション学習を実施し相互理解を深めています。今年度で12回目になりました。

いずれの時代においても、本校教育の底に流れているのは「自主・自律」の精神の涵養です。自らを厳しく律し、自ら考え、正しく判断し、より良く行動していかうとする「自律」の精神は昭和22年の開校以来、スクールモットー、校訓になっています。一昨年の創立60年を経て、現在までの卒業生の数は約一万人に達し、各界で活躍してい

ます。現在の、また、未来の附中学生が、この「自律」の精神を受け継ぎ新たな歴史を刻んでくれることを大いに期待したいと思います。





卒業生からの活動報告

おかだ よしずみ
岡田 良瑞

平成14年度 教養学科 スポーツコース卒業生

(オーストラリア、ブリスベン・プレミアリーグ、Brisbane Strikers選手)

『荷物が重たいのではない、 自分の力が足りないのだ。』

私が大阪教育大学在学時、人生において大きな幹となる言葉をサッカー部監督である恩師入口豊先生から頂いたことから、私自身の人生観は大きく変わりました。それは『荷物が重いんじゃなく、その荷物を持つ力がお前にはないんだ。』という言葉でした。

大学卒業後に、現佐川急便SC (JFL) にセレクションを経て入団。その後四年間、午前中は配達業務、午後はサッカーの練習といった生活を送り、四年目の昨シーズンは年間順位3位という好成績で終えることができました。四年目が終わった時、チームから戦力外通告を言い渡され、サッカーを継続するのか、引退してサッカー以外の道に進むのか大きく悩みました。かねてから海外生活と英語への関心もあり、オーストラリア州リーグで活躍した元日本人選手から話を聞き、単身渡豪することを決断。右も左も分からない真っ白な状態から私のオーストラリア生活はスタートしました。当初、本当にサッカーができるのか、生活していけるのか不安でしたが、海外にまで行くことを決断させたサッカー、



後悔だけは残さないように

にと自分自身を奮い立たせ、英文履歴書を片手にクイーンズランド州のブリスベン・プレミアリーグ所属チームをサッカーをさせてくれと単身歩き回りました。幸運にも、現所属チームBrisbane Strikersがテストを受け入れてくれ、練習参加一週間目で契約。その後、残りのシーズンはレギュラープレーヤーとして常時試合に出場でき、充分生活できる収入をえることができるようになりました。リーグ上位4チームによるグランドファイナルも決勝まで進出し、敗れはしたものの多くの観客の前でいいプレーができ最高の経験になりました。もうすぐ半年が経過しますが、自身の決断は間違いではなかったと確信できると同時に、渡豪決断を快く了承してくれた両親、お前ならできると送り出してくれた大学の入口先生、三村先生には感謝してもきれない思いです。

大学を卒業される皆さんも今後の生活、生きていく上で沢山の壁、困難が待ち受けていると思いますが、その度に私が恩師に頂いた言葉を参考にして欲しいと思います。何かのせいにして言い訳をするのではなく、自分の力で解決方法を考えて困難を乗り越えて行く。その先にはきっと達成感、充実感、夢が存在しているはずです。私がそうだったように。



左のブルーのユニホームがリーグ戦で活躍する岡田選手



学生交流協定校への留学学生の体験記

みや はら たか みつ
宮原 孝光

教養学科 文化研究専攻欧米言語文化コース(英語圏) 5回生

『スーツケースには気力・体力・ど根性を』

私は、06年の夏から07年の春まで、交換留学生としてアメリカ合衆国にあるノースカロライナ州立大学ウィルミントン校で学びました。名前の通りノースカロライナ州のウィルミントンというところにキャンパスがあるわけですが、日本とほぼ同じ緯度で、東海岸に面した住みやすい町でした。大学から車で10分ほど走れば美しいビーチが広がり、夏には学生が毎日のように遊びに来ます。日本に帰ってきて以来、いろんな友人にこのことを話すと、決まって「いいなあ!楽しかった?」と尋ねられます。勿論、向こうの友人と海に遊びに行ったこともありますし、楽しかったのは事実です。しかし、自身の留学生生活を振り返るとき、真っ先に思い出されるのは、美しい砂浜や熱気に包まれたクラブではなく、寮の薄暗い部屋でパソコンの前に座り、本や資料をめくっている自分の姿や、明け方まで勉強した図書館の個室、授業についていこうと必死にノートを取り、クラスメートと議論した教室、分からないところを質問するために通った教授の研究室、徹夜明けの眠気を覚ますために飲んだコーヒー、テスト前に熱を出し、お世話になったバファリン、などの苦しかった思い出です。こうした辛い体験は挙げればきりがなく、それに比べて楽しかったことなどわずかしかない、というのが本音です。

それでも、私は交換留学に行かせて頂いてよかったと心から思い、同時に送り出してくれた大阪教育大学、支えてくれた両親や留学生センターの方々、向こうで私を励ましてくれた多くの友人に感謝しています。今となってそのように思えるのは、向こうで経験した数々の苦難を糧として自分が成長したことを

実感しているからです。この留学を通して、ことばとその背後にある文化が一体となっていることを知り、異なることばを使うことで自分に全く別の「個性」が加わったような感覚を得ました。こうした発見は、一瞬で終わる儂い楽しかった出来事ではなく、今後も私に影響を与え続ける「たのしみ」です。



同じ留学生のクラスメートと(左端が宮原さん)

TOPICS

第2回国際交流フェスティバル



第2回国際交流フェスティバルが、本学と柏原市との共催により、国際化の発展に寄与すること、本学留学生、柏原市民の交流の場とすることを目的とし、11月23日(金・祝)に、開催されました。今年は、留学生と日本人学生、市民が、料理や踊り、音楽を紹介した他、「語学教室」を開講しました。当日は、約880人の来場者で賑わい、「今後も続けてほしい。」「料理や踊り等本当に楽しかった。」等、今後の発展を期待する声が多く聞かれました。

課外活動状況

平成19年度は運動系サークルが各種大会で活躍しています。

女子ハンドボール部

- ・全日本学生ハンドボール選手権 **3位**
- ・全日本総合ハンドボール選手権大会 **ベスト8**

剣道部

- ・全日本女子学生剣道優勝大会 **ベスト8**

女子サッカー部

- ・全日本大学女子選手権大会 **出場**

男子サッカー部

- ・関西学生サッカーリーグ **1部昇格**

教養学科

創設20周年記念事業を実施

1988年4月に創設以来20周年を迎えた教養学科は、12月15日に柏原キャンパスにおいて「大阪教育大学教養学科創設20周年記念シンポジウム」を開催しました。会場を埋めた教職員、学生、市民ら320人の参加者を前に、「『解のない時代』に期待されるリベラルアーツ教育～企業・経営者の視点から～」をテーマに、株式会社ニチレイ代表取締役会長・社団法人経済同友会副代表幹事 浦野光人氏による基調講演が行われました。それに引き続くパネル討論では、コメンテーターとして教養学科卒業生を迎え、卒業後の実社会での体験を通して教養学科で受けた教育の成果が熱く語られました。



挨拶する福垣学長

地域連携コーディネータを発令

地域連携コーディネータの制度が発足し、平成19年12月1日に、地域連携コーディネータの3名の発令がありました。この地域連携コーディネータは、地域連携について、総合的に進めていくための連絡・調整・企画等の業務を行います。コーディネータとしては、教職教育研究開発センター 關隆晴教授(地域担当)、同センター 島善信教授(教育委員会担当)、そして科学教育センター 任田康夫教授(産学担当)です。今後、ますます地域連携が進むことが期待されます。

平成20年度公開講座実施予定

分野	講座名	実施時期	時間帯	募集定員(名)	開講キャンパス	募集時期
学校教職員等	コミュニケーション・表現力向上講座	5/10～5/31	10:30～12:00	12	天王寺	3/17～4/18
	小学校英語の指導法講座	5/31～6/28	14:00～17:00	25	天王寺	3/31～5/9
	健康教育のためのSPSS講座	7/26～9/6	13:30～16:30	32	天王寺	6/9～7/11
	国語の力講座 一読解力を育む言語活動の開発	7/31	13:00～16:15	20	天王寺	6/16～7/18
	小・中学校教員のためのパソコン教室(Excel編)	8/19～8/21	9:30～16:30	32	天王寺	6/9～7/18
一般市民	ドイツ語会話入門A	4/15～7/15	17:45～19:15	10	天王寺	2/25～3/28
	ドイツ語会話A 初級から中級へのステップ・アップ(1)	4/15～7/15	19:30～21:00	10	天王寺	2/25～3/28
	ドイツ語会話入門B	10/14～1/13	17:45～19:15	10	天王寺	8/11～9/12
	ドイツ語会話B 初級から中級へのステップ・アップ(2)	10/14～1/13	19:30～21:00	10	天王寺	8/11～9/12
	中国語IIA(中級A)	4/15～7/22	19:30～21:00	10	天王寺	2/18～3/21
	中国語IIB(中級B)	10/7～1/27	19:30～21:00	10	天王寺	8/11～9/12
	*教養基礎科目(前期科目)	4/10～7/23	—	—	柏原	3/10～3/21
	*教養基礎科目(後期科目)	10/1～1/27	—	—	柏原	9/8～9/19
	市民のためのパソコン教室基礎編A(ウィンドウズ入門)	5/10、5/17	9:30～12:00	32	天王寺	3/10～4/11
	市民のためのパソコン教室基礎編B(ワード入門)	5/24、5/31	9:30～12:00	32	天王寺	3/10～5/2
市民のためのパソコン教室基礎編C(エクセル入門)	6/7、6/14	9:30～12:00	32	天王寺	3/10～5/23	
市民のためのパソコン教室基礎編D(インターネット入門)	6/21、6/28	9:30～12:00	32	天王寺	3/10～6/6	
市民のためのパソコン教室 番外編	10/4～10/25	9:30～12:00	32	天王寺	8/18～9/19	
実技講座	音楽実技公開講座「ソルフェージュ・トレーニング」	7/12、7/13	10:00～12:00	30	柏原	5/26～6/27
	音楽実技公開講座「ピアノを学ぶ人のための(Aコース)」	7/12	10:00～16:00	20	柏原	5/26～6/27
	音楽実技公開講座「ピアノを学ぶ人のための(Bコース)」	7/13	10:00～16:00	20	柏原	5/26～6/27
	音楽実技公開講座「音楽を学ぶ人のための」	7/12、7/13	10:00～16:00	10	柏原	5/26～6/27
一般市民	音楽実技公開講座「管楽器を学ぶ人のための」	7/12、7/13	10:00～16:00	10	柏原	5/26～6/27
	音楽実技公開講座「管楽器を学ぶ人のための」	7/12、7/13	10:00～16:00	10	柏原	5/26～6/27
	市民のための声楽講座	5/10～1/24	13:30～16:00	12	天王寺	3/10～4/11
	書講座「春」	5/8～7/10	18:30～20:00	12	天王寺	3/17～4/18
	書道講座「篆書・基礎3」	6/28、6/29	13:30～16:00	20	柏原	5/12～6/13
	書道に親しむ講座「臨書4」	8/19～9/30	13:00～16:00	20	柏原	6/30～8/1
	書講座「秋」	10/2～12/11	18:30～20:00	12	天王寺	8/11～9/12
	美術講座「陶芸入門」	5/10～7/26	10:30～12:30	20	天王寺	3/10～4/11
	美術(陶芸)	5/10～7/26	13:30～15:30	20	天王寺	3/10～4/11
	美術実技講座「絵画表現の基礎」	7/28～8/1	13:00～16:00	25	柏原	6/2～7/4
	スポーツ講座「楽しいジョギング教室」	7/5～9/27	17:00～19:00	30	柏原	5/19～6/20
	電子工作講座「手作りラジオ教室」	8/5、8/6	10:00～16:00	10	天王寺	6/9～7/11
	中国語講座「初級A」	5/2～7/11	18:00～19:30	15	天王寺	3/17～4/18
	中国語講座「初級B」	10/3～12/19	18:00～19:30	15	天王寺	8/11～9/12
	韓国語講座「中級A」	5/13～7/15	18:30～20:00	15	天王寺	3/17～4/18
韓国語講座「中級B」	10/14～1/13	18:30～20:00	15	天王寺	8/11～9/12	
タイ語講座A「発音・文法編」	5/10～7/26	13:00～14:30	15	天王寺	3/10～4/11	
タイ語講座B「文字と発音編」	5/10～7/26	15:00～17:30	15	天王寺	3/10～4/11	
タイ語講座C「読解編」	5/10～7/26	18:00～19:30	15	天王寺	3/10～4/11	
中国茶の歴史と文化講座「喝茶、品茶」	7/1、7/22	18:00～19:30	20	天王寺	5/12～6/13	
古典文化講座「能楽を楽しもう」	11/下～12/中	11:00～15:00	40	天王寺	日程調整中	
特別公開講座「高校生のための英語A」	4/12～7/19	13:30～15:00	15	天王寺	2/18～3/21	
特別公開講座「高校生のための英語B」	10/4～1/24	13:30～15:00	15	天王寺	8/11～9/12	

実施日程等の詳細は、次のウェブページアドレス等で随時お知らせしますので、改めてご確認ください。<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~llc/>
 なお、※印については、開講科目、受講登録等詳細は<http://www.bur.osaka-kyoiku.ac.jp/kokusai/jyukokai.html>でご確認ください。

『天遊』とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。

記念碑の揮毫は、水嶋 晶(山耀)本学名誉教授によるものです。



本誌にご意見をお寄せください

本誌「天遊」は今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどをお聞かせください。

●宛先 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
 国立大学法人大阪教育大学企画課
 TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225
 E-mail kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

ホームページ <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/>